



安城市東海道松並木420年の歩み-守る、つなぐ-



錦町小 5年 寺田 絢惺

1、理由

去年、安城市歴史博物館で、『東海道みてある記』という展示ビデオを見ました。東海道の一里塚や松並木などのしょうかいをしていました。江戸時代から現在まで、約420年間も残されている東海道と松並木に、とてもきょうみがわきました。

420年の間、どのように守られ、どのように変わってきたのか、調べようと思いました。

2、方法

- ・関係のある本や文書をさがして調べる。
- ・くわしい人たちに、話を聞いたり、写真などの資料を見せていただく。
- ・実さいに、安城市の東海道を歩いて見る。
- ・松並木を守る活動を取材したり、体験したりする。
- ・ほかの市の松並木を見学したり、守る活動を取材したりする。

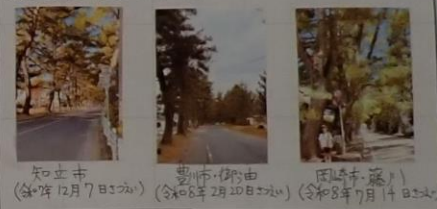
(調べた本など)



(お世話になった人たち)



(ほかの市の松並木のおす)



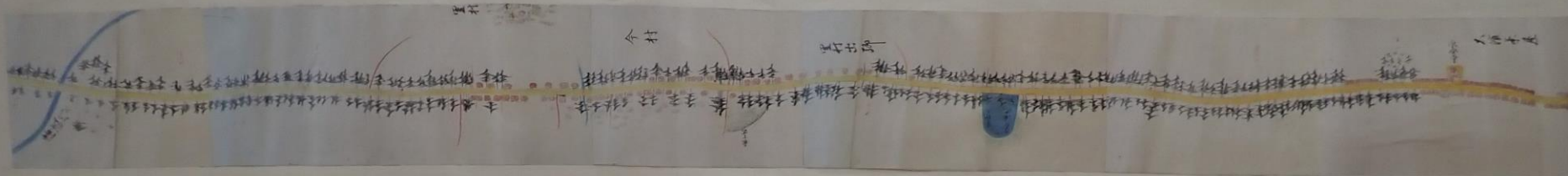
3、調べたこと

(1)東海道と松並木の移り変わり

年	ことがら (● = 東海道について、● = 松の本数について)
● 慶長6年(1601)	徳川家康が、街道を整備し、東海道来に53の宿駅を制定した。 (東海道五十三次)
● 慶長9年(1604)	道の両側に松を植え、1里(約4km)ごとに、塚を築いて道しるべとした。(一里塚)尾崎村の熊野神社前に、江戸から83番目の一里塚を設置した。
● 慶長17年(1612)	道路の補修・並木敷地の定めをし、幕府が直接管理した。

● 天和年間
(1681~1684)

東海道絵図(永安寺~猿渡川) - 東栄・今本町内会連合会蔵
。松並木が東海道の両側につづいていることがわかる。



● 元禄3年(1690)

東海道分間絵図(尾崎~来迎寺) - 安城市歴史博物館蔵

。松並木のようにすとともに、落ちている松葉をかき集める人、行き来する旅人、一里塚などもかかれている。(着色 寺田絢惺)



(松葉をかき集める人)

(旅人)

(一里塚)

● 元禄7年(1694)

江戸幕府が各宿場に助郷(宿場の問屋から要請があった場合、決められた村が、荷物を運ぶための人や馬を出す制度)を設定した。このころ掃除丁場(街道のふだんの掃除をする区間)も設定されたようだ。

● 寛政12年(1790)

街道北側に23本、南側に136本 計368本 『柿碕村文書』より
(宇頭村~尾崎村) (287ページ「往還並松改掃除丁場検地帳」)

● 文政7年(1824)

街道北側に312本、南側に162本 計474本 『柿碕村文書』より
(宇頭村~尾崎村) (302ページ「往還並松改掃除丁場検地帳」)

● 天保15年(1844)

街道北側に170本、南側に100本 計270本 『柿碕村文書』より
(宇頭村~尾崎村) (304ページ「往還並木書上帳」)

● 明治時代

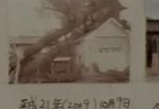
東海道は、国道として、重要な役割をもち、人や荷物を運ぶ人力車や乗合馬車、荷馬車などが行き来していた。

●昭和33年(1958)	新しく国道1号線が開通する。 東海道は、市道(旧国道線)になる。(正式な年月日はわかりませんでした。)
昭和34年(1959)	伊勢湾台風により、たくさんの松が、おれたり、たおれたりした。
●昭和45年(1970) 3月16日	安城市の文化財(天然記念物)に指定される。
昭和47年(1972)	クロマツが、安城市の「市の木」に決まる。
●昭和47年(1972)	(南北別)の本数の記録なし 計175本 あんじょう広報7月「緑のたより」より
●平成17年(2005)	道路北側に108本、南側に122本 計230本 『安城市史11資料編 自然』第6節 8木 ①旧東海道のマツ並木より
●令和元年(2019)	(南北別)の本数の記録なし 計226本 安城市ホームページより
●令和5年(2023)	北部小、志貴小、里町小(令和6年より)の卒業記念として、 東海道にクロマツの植樹が始まる。(令和8年3月までに合計24本の記念植樹)
●令和6年(2024)	道路北側に111本、南側に137本 計248本 『安城市東海道マツ並木連絡会』資料より
●令和8年(2026)	(南北別)の本数の記録なし 計247本 『安城市東海道マツ並木連絡会』資料より

(わかったこと、感想)

- 江戸時代の東海道や松並木の記録がよく残っていて、その間、東海道や松並木が大切に管理されていたことがわかります。
- 令和になって、記念植樹の活動や「東海道マツ並木連絡会」が行われるようになり、これから、東海道松並木の整備が、さらに進んでいくと思います。

(2)昔と今の写真くらべ (①～⑤の写真の場所は、次の(3)①の『東海道見てある記』の略図の中で、示しています)
(くわしい人に場所を教えてくださいました。)

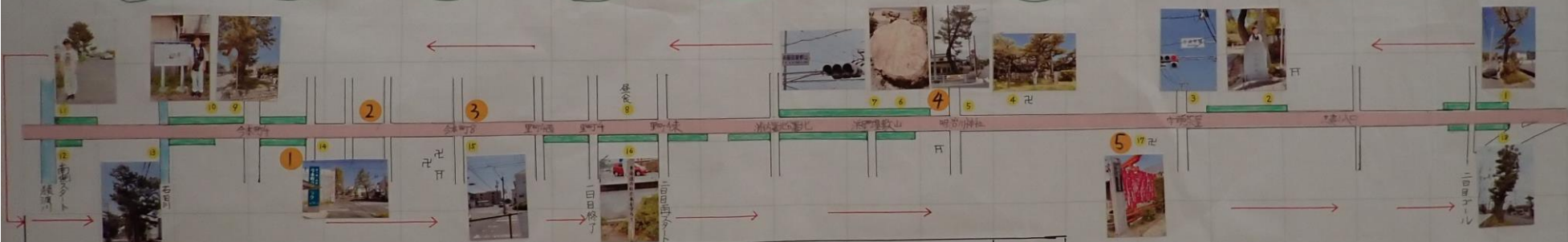
①(今本町7)ニク付近)	②(今本町8丁目付近)	③(今村郵便局付近)	④(明治川神社北)	⑤(妙教寺前)
 昭和9年(1934)と3 『伊勢湾海の100年』より  令和8年5月17日と21	 昭和19年(1944)と3 『伊勢湾の思い出』より 昭和54年7月28日発行 国書刊行会  令和8年5月17日と21	 昭和30年代後半 『伊勢湾の思い出』より (昭和2年(2020)4月30日発行)  令和8年5月17日と21	 明治末期 『安城市史』より  令和8年5月17日と21	 平成19年(2007)12月 『安城市史』より 2035年  平成21年(2009)10月7日 『伊勢湾の思い出』より  令和8年5月17日と21

(わかったこと、感想)

- 町や交通の発展により、松がへっていったのがわかります。
- 大きな台風は、松並木にも、こわいものだと思います。

- (3) ぼくの『東海道見てある記』(令和8年5月2日(土)と3日(日)に、東海道を歩いて往復しました。)
- ・略図の が、東海道です。 は、松並木が続いていたところです。
 - ・①～⑤は、(2)で「昔と今の写真くらべ」をした場所です。
 - ・⑥～⑮は写真をとったり、スタート、ゴールしたりした場所です。①～⑮が、それぞれの説明と感想です。

11:40 北側 猿渡橋 ゴール	11:27 松並木に話があき	11:25 東海道松並木の美しい景色。	10:35 今本町四丁目交差点西	10:35 江戸時代のお店の茶屋	10:30 大浜茶屋の名が残っている。	10:04 年輪の数が増え、樹令が70年、100年	10:00 交差点の美しい松	9:50 守樹令350年。雲竜の松	9:35 茶屋があきた地名	9:31 宇頭茶屋交差点	9:12 熊野神社の約32km	9:12 江戸時代は入	9:12 尾崎北側
---------------------------	-------------------	------------------------	---------------------	---------------------	------------------------	------------------------------	-------------------	----------------------	------------------	-----------------	--------------------	----------------	--------------



11:48 南側 猿渡橋 スタート	11:55 石田橋	12:10 今本町クリニグ	12:30 松並木がきれいで、家が	12:50 JA北店前	9:10 JA北店前	10:00 妙教寺	10:25 尾崎南側	(感想) ・往復約9.5km。初日は6kmほど歩いてつきました。 ・松並木がとぎれる場所もありました。(住宅街) ・ほかに、松並木を見ながら歩くグループを組んできました。うれしくなりました。
----------------------------	--------------	------------------	----------------------	----------------	---------------	--------------	---------------	--

(4) 守り、つなぐ活動の歩み ア(江戸時代)

幕府の道中奉行を中心に、東海道松並木の管理が行われていました。『柿碕村文書』の「往還並松改掃除丁場検地帳」や「往還並木書上帳」などによれば、地元、また東海道周辺の町村の人たちが、道路の掃除や修理、松並木の世話をそれぞれ、割り当てられていました。この人たちには、ふたんになっていたようですが、この幕府の制度やしきみが、江戸時代の約260年間つづいたことが、今も東海道松並木を見られることにつながっていると思います。

イ(明治～昭和)

はっきりにした記録は見つけれませんでした。交通機関の発達により、幹線道路としての東海道は、整備がすすみました。でも、町が大きくなるにつれ、松並木は、減っていったようです。昭和40年代ころから、歴史的景観をもつ東海道松並木の見直しが進み、昭和45年に安城市の文化財(天然記念物)に指定され、守り、つなぐ活動が進むようになりました。

ウ(平成～現在へ) 町で守り、つなぐ保護活動が進むようになりました。

(ア)現在の保護活動ボランティアグループの紹介

会の名前 (会員数)	東栄町東海道松並木の会 (14人)	尾崎町東海道松並木愛護会 (24人)	今本町街路樹愛護会 (12人)
発足年	平成19年(2007)	平成22年(2010)	令和5年(2023)
活動日時	毎月第2、第4火曜日 7時30分～8時30分	毎月第2、第4土曜日 7時30分～8時30分	毎月第1、第3日曜日 4月～9月 7時～8時 10月～3月 7時30分～8時30分
活動場所	明治川神社交差点 ～碧海信用金庫(外枝店) 道路南側(東栄町寄り)	。西側班 宇頭茶屋交差点 ～熊野神社東 。東側班 尾崎町 ～マクドナルド尾崎店北	猿渡橋東～今本町川口北
活動の様子	(令和7年11月11日取材さつゐ活動体験) 	(令和7年12月13日取材さつゐ)(令和8年7月25日さつゐ) 	(令和7年12月7日取材さつゐ活動体験) 

(イ)安城市で、市民の安全とともに、松並木の健康、景観を守り、つなぐ活動

せ ん 定	ば っ 採	投 薬	植 樹 (補 植)
 ・病虫害や電線にふれるのを防ぐため、枝を切る。 (令和8年1月20日さつえい)	(令和8年3月10日さつえい)  立ち枯れのため 交通安全のため ばっ採前 ばっ採後 ばっ採前 ばっ採後  (令和7年12月30日さつえい) (令和8年1月8日さつえい) (令和7年12月30日さつえい) (令和8年1月23日さつえい)	(令和8年1月29日さつえい)  ・病虫害を防ぐため、幹に小さなあなをあけて薬を注入する。	令和7年度記念植樹パネル  記念植樹 志賀小 里町小 北部小 (すべて令和8年3月15日さつえい)

(わかったこと、感想)

- ・松並木を守り、つなぐ活動が、たくさん行われていることがわかりました。それらの活動が人の生活の安全を守ることに、つながっているんだと思いました。
- ・愛護会の活動の体験で、松の落ち葉が思ったより多くて、かき集めて片づけるのが、たいへんでした。きれいになった時は、すっきりしました。
- ・愛護会の活動が、これからも広くつながってほしいと思いました。

4.まとめ

- ・徳川家康が始めた東海道と松並木づくり。それらを大切に思う人たちが、420年間、守り、つないでくれたおかげで、今も、そのすがたを見られるんだと思いました。
- ・ぼくが、5月に東海道を歩いた時、同じように松並木を見ながら歩いているグループを3組見ました。東海道と松並木の景色を楽しみに来てくれる人たちを見て、うれしくなりました。
- ・令和5年～8年まで、卒業記念樹として植樹された松が24本ありました。そばに立てられたプレートには、「未来」「永遠」「つなぐ」ということばが多く使われていました。東海道松並木には、それらのことばが、よくにあうと思いました。ぼくが大人になった時、成長した松のすがたを見るのが楽しみです。
- ・愛護活動の体験で、落ち葉が多すぎて、近くに住む人たちが苦勞していることも聞きました。住民の生活を守り、松並木の景観も守るむずかしさも教えていただきました。みんなで工夫できるといいなと思います。落ち葉の少ない松並木になるといいなと思いました。
- ・この研究のために、安城市文化振興課(文化財係) 維持管理課をはじめとして、ご協力いただいた皆さんにお礼を伝えたいと思います。ありがとうございました。